

コンクリート主任技士演習問題

(コンクリート主任技士試験 完全攻略問題集 2012 年版 より)

配(調)合

コンクリートの配(調)合に関する次の記述のうち、不適当なものはどれか。

- (1) スランプを変えずにブリーディングを低減するために、A E 剤を A E 減水剤に変更し、単位水量を低減するとともに、細骨材率を若干大きくした。
- (2) 細骨材率はコンクリートのワーカビリティと密接な関係がある。一般に細骨材率を小さくすると材料分離の傾向が生じるが、A E コンクリートでは気泡が微粒子の役目も果たすので、細骨材率をそれに見合うように小さくしても、分離の傾向は生じない。
- (3) 水セメント比は、所要の強度、耐久性、水密性および作業に適するワーカビリティが得られる範囲で最小となるように定める。
- (4) 碎石コンクリートは川砂利コンクリートに比べスランプが小さくなり、ワーカビリティは若干悪くなる。ワーカビリティを保ちつつ同スランプを得るためには単位水量を増し、単位粗骨材かさ容積を減じなければならない。

解答と解説

解答

正解(3)

水セメント比は、所要の強度、耐久性、水密性を考慮し、これから定まる水セメント比のうち、最小の値を選ばなければならない。水セメント比とワーカビリティは直接の関係がない。